

行動経済学会第13回全国大会

岩澤 誠一郎*

1. はじめに

行動経済学会は、日本における行動経済学会の促進を図り、その研究に関心のある広い分野（経済学、ファイナンス、会計、経営、マーケティング、心理学、政治学など）の研究者、実務家、学生の交流の場、そして研究者の核となる場を提供すべく、2007年に設立された学会である。学会設立以降、毎年11月または12月に全国大会を開催しており、第13回大会は、2019年11月9日（土）、10日（日）の両日、名古屋商科大学ビジネススクール名古屋キャンパス丸の内タワーで実施された（Fig.1）。

2. パネルディスカッション：ナッジを考える

今大会のハイライトは、大会第2日目に行われた「ナッジを考える」と題されたパネルディスカッションであった。コーディネーターは大竹文雄氏（大阪大学）で、パネリストとして依田高典氏（京都大学）、中村隆文氏（神奈川大学）、柴田浩久氏（宇治市）、松村真宏氏（大阪大学）が登壇した。人が望ましくない行動をとっているとき、その行動を変容させるための人為的な介入であるナッジについて、地方自治体における介入の事例から、介入における倫理的な問題まで幅広い議論が行われた（Fig.2）。

3. 一般報告・特別セッション・教育セッション

今大会では10セッションで27本の一般報告が行われた。各セッションのテーマは「実証分析」、「意思決定（理論）」、「意思決定（実験・実証）」、「ファイナンス」、「幸福度」、「ナッジの実践と課題」、「自然災害」、「教育・労働環境の効果」、「ハウスホールドファイナンス」、「プロスペクト理論とヒューリスティクス」であった。「実証分析」のセッションにおける佐々木周作氏（京都大学）の「寄付金控除とマッチング寄付の比較：日本の寄付税制の行動経済学的実験研究」、あるいは、「自然災害」の



Fig. 1: 学会会場.

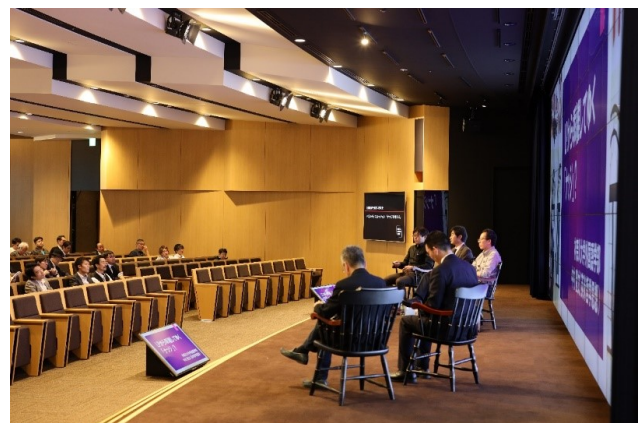


Fig. 2: パネルディスカッション.

セッションにおける大竹文雄氏（大阪大学）の「豪雨災害の予防的避難の促進ナッジ」にみられるように、行動経済学を社会問題に適用し、理論・実験・実証に基づき、より良い対応を模索する試みが起きている点に、近年の行動経済学研究の特徴の一つを見出すことができる。

*行動経済学会第13回大会運営委員長 名古屋商科大学

Received: 7 December 2020.



Fig. 3: 特別セッション会場の様子。

一般報告に加え、行動経済学のフロンティア的研究、あるいは周辺領域の研究を紹介することで新たな研究を触発することを意図した特別セッションとして、「株価とセンチメント：テキスト・マイニングからのアプローチ」、「マーケティングと行動経済学」、「知覚心理学の世界：なぜ縦方向は横方向よりも長く見えるのか」、「行動経済学と良心」の4つが開催された (Fig.3)。

さらに、「研究者向け教育セッション」として「行動経済学の教育」について、「一般向け教育セッション」として「結婚と幸福」についての報告が行われた。会場に立ち見が出た「行動経済学の教育」のセッションでは、竹内幹氏（一橋大学）が教室実験を中心とする授業、川西諭氏（上智大学）がインタラクティブな授業、そして岩澤誠一郎（名古屋商科大学）がビジネス・ケースの討論による授業につき、各々の実践に基づいた報告を行った。

4. 表彰

大会では、一般報告及びポスター報告の中から優秀なものを表彰する「奨励賞」、学会誌「行動経済学」の優秀論文を表彰する「アサヒビール最優秀論文賞」、社会・行政の課題解決に向けての行動変容についての優れたアイデアを表彰する「ベストナッジ賞」、そして学会員の卓越した学術業績を表彰する「ヤフー株式会社コマースカンパニー金融統括本部優秀論文賞」の表彰式が行われた。

表彰式に続き、ヤフー株式会社コマースカンパニー金融統括本部優秀論文賞を受賞した室岡健志氏（大阪大学）により受賞論文“*Inferior Products and Profitable Deception*”についての講演が行われた (Fig.4)。



Fig. 4: 受賞記念講演。



Fig. 5: 懇親会。

5. 懇親会

大会第一日目の夕刻、大会会場の名古屋商科大学ビジネススクール名古屋キャンパス丸の内タワーの3階カフェテリアにおいて、懇親会が開催された (Fig.5)。

6. 第14回大会

第14回大会は、2020年12月12日（土）、13日（日）の二日にわたり、オンラインで実施される。パネルディスカッション「行動経済学から新型コロナを考える」、特別セッション「行動ファイナンス」、「行動経済学とマーケティング」、「行動を迅速に捉える最新研究」、一般向け教育セッション「日本の政策ナッジの最前線」、研究者向け教育セッション「ポスト・コロナ時代の社会システムのデザイン」が開催される。一般報告では、「Covid19と行動経済学」、「実験経済学」、「ファイナンスと金融行動」、「行動経済学理論の実証」、「労働と社会」、「ゲーム理論とモデル」の6セッションの下、20本の報告が行われる予定である。